

## まもなく保存作業へ

### 「奇跡の一本松」に祈り

お盆休みの県内、保存作業のため間もなく切り倒される陸前高田市の一本松にも大勢の人が訪れ、それぞれの思いで津波に耐えた松の姿を見上げていました。中には線香や花を用意して震災の犠牲者の霊を弔う姿も見られました。奇跡の一本松は「立ち枯れ」の状態となっていて、保存処理を施すため来月初めにも一旦切り倒されます。そのため津波に耐えた自然の姿を見ることが出来る時間は、あと1か月ほどに。一本松は切り倒されたあと腐らないように表面を樹脂で固め、津波から2年となる来年の春までに再び同じ場所に設置される予定です。(8/14 ニュースエコーより)



## 臨時災害FM局をつなぐホットライン

### 宮古発 さんりく元気ラジオ!

宮古・大槌・陸前高田の3つの臨時災害FM局と交代わりでホットラインを繋ぐ「さんりく元気ラジオ!」(毎週水曜「ワイドステーション」内で放送・午後3時半～)、8日はみやこ災害FMからのレポート。5日に行われた「浄土ヶ浜サマーフェスティバル」について伝えてくれました。ビーチサンダル飛ばし大会など様々なイベントや、みやさと奏さんなど地元出身の歌手たちのコンサートもあり、震災後初の観光シーズンを迎えた浄土ヶ浜はおおいに盛り上がっていたという事です。



## 被災地の現実に目を

### 盛岡市で写真展開催

震災の発生から1年5か月が過ぎた今、あらためて被災地について考えてもらおうという写真展が盛岡で開かれています。この写真展は東日本大震災の現実にいま一度目を向けてもらおうと、県内出身の写真家大谷広樹さんとナカムラユウコウさんが企画したもの。会場には震災発生直後に撮られたまの生々しい傷跡が残る写真から、復興へと一步一步向かう被災地の人々の写真などおよそ40点が展示されています。写真展はクロステラス盛岡で18日まで行われています。(8/14 ニュースエコーより)

## 間寛平さん山田町をスタート

人気お笑い芸人の間寛平さんが岩手・宮城・福島の被災地に元気を届ける「みちのくマラソン」が13日山田町を出発しました。



沿道にはたくさんの人が詰めかけ、寛平さんを応援しました。世界一周「アースマラソン」の完走などマラソンランナーとしても知られる間寛平さんは自身も阪神大震災で自宅が全壊した経験があり、今回、東日本大震災の記憶を風化させないようにと「みちのくマラソン」を決意。出発地点となった山田町船越の陸中海岸青少年の家では寛平さんと地元の人達の記念のジョギングが行われ、互いに交流を楽しみました。「みちのくマラソン」は21日まで440キロの道のりを駆け抜け、福島県いわき市のゴールを目指します。(8/13 ニュースエコーより)

## IBCラジオからのお知らせ

### 元気発信! ラジオ希望堂 (毎週土曜午後0:40~)

被災地で前向きに取り組んでいる人の姿を紹介する内閣府提供「元気発信! ラジオ希望堂」。18日は、山田町の中心市街地でタクシー会社を営む、山崎淳一さんに現状とこれからの決意を伺います。(写真は山田町山崎タクシー)



## IBCラジオが伝えた震災

### CDブック「その時、ラジオだけが聴こえていた」

突然襲った大地震と大津波、電気も交通も通信も途絶え、孤立した人々に、ラジオは正しい情報を伝え、そして襲い来る津波に警笛を鳴らし続けました。また、避難所では安心と勇気を伝え続けました。本書は当時のIBCラジオの報道現場を伝えるスタッフたちのドキュメント。震災直後や被災地のレポートなど音声CDを付け、ラジオの震災記録として後世に伝えます。全国の書店で発売中。1,365円(税込) 問い合わせ IBC事業部 019-623-3138



「IBC復興支援室だより」では、ラジオ、テレビなどIBCを通じて放送する、震災復興に関するさまざまな情報をピックアップし、リリース等を通じて定期的に発信・紹介します。9月からはfacebookでの発信も予定しています。

IBC復興支援室事務局(ラジオ放送部内) 019-623-3122